

埋文にいがた

MAIBUN

新潟県埋蔵文化財センター

MAIBUN
NIIGATA

2018 JUNE

第103号

発掘調査
遺跡・整理
遺跡紹介

催事紹介 夏季企画展 丸木舟の考古学

春季企画展

火焰型土器

— 縄文の息吹 —



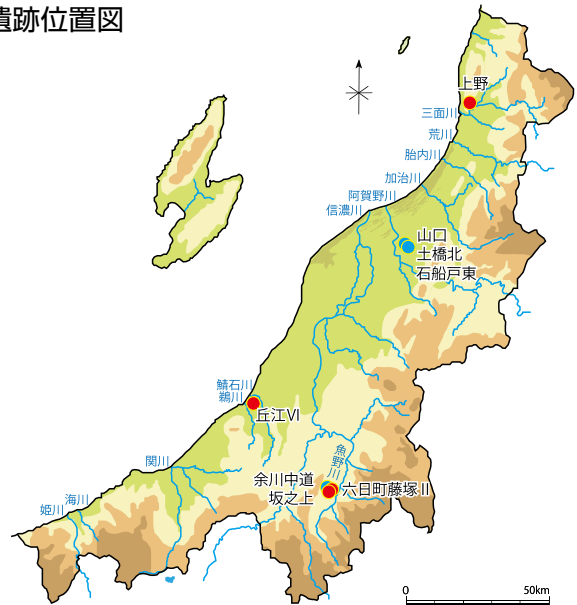
表紙：火焰型土器—縄文の息吹—
平成30年4月13日～6月24日（十日町市教育委員会蔵）



平成30年度
本発掘調査遺跡・
整理遺跡の紹介

平成30年度は、本発掘調査を村上市上野遺跡Ⅱ、柏崎市丘江遺跡Ⅵ、丘江遺跡Ⅶ、南魚沼市六日町藤塚遺跡・坂之上遺跡、魚沼市工田遺跡（8月ごろ着手予定）の6遺跡、整理作業を阿賀野市土橋北遺跡・山口遺跡・石船戸東遺跡・南魚沼市余川中道遺跡の4遺跡について実施しています。

遺跡位置図



かみの
上野遺跡Ⅱ (村上市猿沢)



三面川支流の高根川右岸に立地し、縄文時代後期（約4,000年前）の集落跡を調査します。建物跡や土坑などが見つかりそうです。

おかえ
丘江遺跡Ⅵ (柏崎市田塚)



中世・近世の遺跡で上・中・下層3面の調査を実施します。いずれも水田跡などの生産域の存在が予想されます。

おかえ
丘江遺跡Ⅶ (柏崎市茨目)



中世から近世の集落跡と考えられる遺跡で建物跡や土坑などの調査が予想されます。

むいかまちふじつか
六日町藤塚遺跡Ⅱ (南魚沼市余川)



古墳時代中期～後期の遺跡です。昨年に引き続き当時の祭祀跡の検出が期待されます。建物跡なども見つかりそうです。

さかのうえ
坂之上遺跡 (南魚沼市余川)



古代と古墳時代主体の遺跡です。建物跡の存在などが予想されます。

とばしきた
土橋北遺跡 (阿賀野市百津)、山口遺跡 (阿賀野市山口)、石船戸東遺跡 (阿賀野市福田ほか) 余川中道遺跡 (南魚沼市余川)



今年度は3遺跡の整理作業を進めています。土橋北遺跡は、縄文時代晩期の低地に営まれた遺跡です。埋設土器などが調査されています。山口遺跡は、低地に営まれた古代・中世の遺跡で建物跡などが調査されました。石船戸東遺跡は、中世の集落を中心とし、平成27・28年度に調査された遺跡で、今年度報告書を刊行します。余川中道遺跡（写真）は、古墳時代中・後期の遺跡で多数の祭祀跡が調査され、数多くの土器が復元されています。



埋文
コラム

たたきいし
ヒスイ製敲石

—糸魚川地域の磨製石斧製作工具—

新潟県と富山県境に位置する糸魚川市は、大断層・糸魚川—静岡構造線が南北に走り、地質的に多様な構造を示しています。様々な岩石や断崖絶壁の親不知、小滝川ヒスイ峡、そして山岳地帯からヒスイが流れ出る青海海岸などの貴重な地形が「地質の宝物」として評価され、一帯が平成12年にユネスコから世界ジオパークに認定されました。中でもヒスイ（ヒスイ輝石岩）は約5億2000万年前という世界最古にできたこと、世界最古のヒスイ文化の基本石材であることなどから、2016年に一般社団法人日本地質学会から「県の岩石」、日本鉱物科学会から「国石」に指定されました。

このような貴重なヒスイですから現代では「宝石」扱いされています。ところがヒスイは美しいだけではなく、非常に硬く割れにくいいため、日本では石を加工するための道具（石のハンマー／敲石）として使い始めました。

糸魚川市大角地遺跡は縄文時代前期（今から約6,500～7,000年前）の遺跡です。豊富な石材環境のもと、蛇紋岩製磨製石斧や滑石製装身具が製作されていました。石斧の材料となる蛇紋岩は遺跡の北方約500mの海岸で容易に採取できる石材です。このため大量の石斧が製作されたと推定できますが、発掘調査で出土したのは作りかけのものや破損品が9割を占めています。おそらく自分たちが使うためだけではなく、ほかへ流通させるための大量生産が行われていたのでしょう。

石斧の製作は大きく5段階に分けられます。

- ① 材料調達：原石を選択するか、原石を割るかして、完成品に近い大きさの材料を用意する。
- ② 荒割：おおまかに打ち欠いておおよその形を作る。
- ③ 調整：細かな打ち欠きによって形を整える。
- ④ 敲打：打ち欠きによってできた鋭い稜線を叩き潰して滑らかな形態に整える。
- ⑤ 研磨：砥石で全面を磨いて滑らかな器表面と鋭い刃部を作り出す。

上記の工程②～④の打ち欠きに使われた敲石に

ヒスイや蛇紋岩が利用されていました。この縄文時代前期のヒスイの利用例が現在のところ世界最古とみられます。（土橋由理子）



図1 大角地遺跡のヒスイ製敲石
（長さ8cm、重さ409.7g）
（光を当てると緑に輝く）



図2 磨製石斧製作方法の復元
（ヒスイ製敲石と磨製石斧）



埋文
インフォ
メーション

平成30年度夏季企画展 丸木舟の考古学 を開催します

かつて潟湖が広がっていた越後平野を行き交う人々に欠かせなかった丸木舟。平成27・28年に阿賀野市石船戸東遺跡の発掘調査で鎌倉時代の丸木舟が見つかりました。切断され、井戸側に再利用されていたその舟は、長さ約5.5m・幅約68cmで、本来は長さ7mほどの大型のものであることが推定されます。

当センターで行っていた保存処理が完了し、本展で初公開します。そして、新潟県内の出土資料を集め丸木舟の歴史を探ります。

- ◆ 日 時：平成30年7月6日(金)～12月9日(日)
9:00～17:00
- ◆ 会 場：新潟県埋蔵文化財センター
- ◆ 観覧料：無料
- ◆ 関連講演会：定員80名（当日定員になり次第
締切、申込み不要）
時間 13:30～15:30
8月26日(日)「丸木舟を作り、漕ぐ」
山田昌久氏
(首都大学東京大学院人文科学研究科)

- 9月9日(日)「蔵ノ坪遺跡－物資輸送の中継地、川の津を探る－」
飯坂盛泰（当センター）
- 10月21日(日)「石船戸東遺跡の丸木舟を観察する」小野本 敦（当センター）
- 11月11日(日)「佐渡小泊窯跡須恵器の生産と流通」春日真実（当センター）
- 12月9日(日)「日本列島の縄文丸木舟」
荒川隆史（当センター）



あおた 青田遺跡（新発田市） 縄文時代の櫂
かい
（新潟県指定有形文化財）



阿賀野市 石船戸東遺跡 鎌倉時代の丸木舟



埋文
インフォ
メーション

親子考古学教室を開催します 少年少女考古学教室 第2回を開催します

親子考古学教室

親子で考古学を学ぶ教室を開催します。本物の縄文土器を持ってスケッチし、土器作り体験（第1回8/5）、火起こし・編み物作り体験（第2回8/8）を行います。作った土器や編み物はそのままお持ち帰りいただけます。また、見たこと・分かったことを書きこんで完成させたワークブックは、夏休みの自由研究としてもお使いいただけます。御参加お待ちしております！

第1回 「土器作り体験」

◆ 日時：8月5日(日) 午前の部9:00～12:00
午後の部13:30～16:30

第2回 「火起こし・編み物作り体験」

◆ 日時：8月8日(水) 午前の部9:00～12:00
午後の部13:30～16:30

※午前・午後の内容は同じです。

【各回共通】

- ◆ 対象：小学4年生～6年生と保護者(午前・午後とも各回先着15組30名)
※要申込・定員になり次第締め切り
- ◆ 申込期間：7月2日(月)～7月31日(火)
- ◆ 参加：無料
- ◆ 申込方法：参加児童、保護者の氏名・よみがな・学年・住所・電話番号、参加希望の回を添えて当センターまでお申し込みください。



親子で土器作り



編み物作り体験

少年少女考古学教室

学年や地域が違う仲間たちと交流しながら、土器や石器などの遺物に触れ、様々な体験活動とおして古代の人々の知恵や生活を学びます。あなたも考古学者を目指そう！

第2回 「たてあな住居の観察と木の実採集」

- ◆ 日時：9月9日(日) 9:00～12:00
- ◆ 内容：古津八幡山遺跡でたてあな住居を観察した後に、木の実を採集し、石で割る体験をします。
- ◆ 対象：小学4年生～中学3年生(先着20名)
※要申込・定員になり次第締め切り
- ◆ 申込期間：8月1日(水)～9月7日(金)
- ◆ 参加：無料

- ◆ 申込方法：氏名・学年・住所・電話番号・保護者の氏名・当日の緊急連絡先を添えて当センターまでお申し込みください。

【今後の予定】

※申し込みはその都度受け付けます。

第3回 11/11(日)
「石器や金属器の観察と石器体験」

第4回 1/27(日)
「縄文時代の木製品の観察と編み物体験」



古津八幡山遺跡で木の実採集



石器の観察

【親子考古学教室・少年少女考古学教室お申込み先】

電話：(0250)25-3981 FAX：(0250)25-3986 メール：niigata@maibun.net



県内の
遺跡・遺物
100

やまもと
山元遺跡

(平成28年10月3日 国史跡指定)

所在地：村上市下助淵 管理者：村上市

山元遺跡は、越後平野の北部に接する村上丘陵に立地しています。最高所で標高約40m、周囲の水田との標高差は36m程と高台に位置する弥生時代後期後半を中心とした集落跡です(図1)。平成17年、日本海沿岸東北自動車道建設に伴う県教育委員会の試し掘りで発見されました。高台に位置(高地)し、ムラを囲う濠(環濠)の存在から「高地性環濠集落」と評価されます。高地性環濠集落としては日本海側で最北例であることに加え、東北系弥生文化圏では初の確認例となりました。遺跡の重要性から高速道路を設計変更して現状保存することが確定し、村上市教育委員会の追加調査を経て、平成28年に国史跡に指定されました。部分的な調査で遺跡の重要性が確認されたため、全面的な発掘調査は行われていません。

遺跡は建物などが見つかった居住域と、お墓が集中する墓域に分かれ、両域は比高約6mの谷で隔てられています。居住域では丘陵斜面部で1条から3条の環濠が確認されました。濠は最大で幅約3m弱、深さ2m弱ですが、平均では幅2m弱、深さ1m程と決して大きくありません。丘の上の

平坦面では^{たてあなためもの}竪穴建物と^{ほったてばしらためもの}掘立柱建物が各1棟見つかりました。竪穴建物は小判形をしたもので、長径約6.3m、短径約4.5mです。居住域では弥生時代後期を中心に土器や^{せきぞく}石鏃・^{いしきり}石錐などの石器が出土しました。土器は表面に縄目の模様がある東北系が圧倒的に多く、続いて北陸系その他、北海道系の^{ぞくじょうもん}縄文土器も出土しています。

墓域では^{どこうぼ}土坑墓17基、^{まいせつどき}埋設土器4基が確認されました。このうち、長径約2mの土坑墓から完形の^{こだま}ガラス小玉が68点、埋設土器からは^{てっけん}小型鉄剣1点^{つつがたどうせいひん}が出土しています。また、土坑墓近くからは筒形銅製品の破片が出土しました(図2)。弥生時代の^{せいどうき}青銅器としては国内最北の事例です。

このように山元遺跡は、北陸文化圏と東北文化圏の接点に位置し、西(南)側の文化・情報がダイレクトに北上する日本海側最北の遺跡です。しかも、居住域と墓域がセットで確認されるなど、弥生時代の集落の様相を知る上で貴重な事例となります。加えて、出土品からわかる広範囲に繰り広げられた地域間交流の在り方を知る上でも重要な遺跡です。(滝沢規朗)



図1 遺跡遠景(南から)



図2 小型鉄剣(左上)・筒形銅製品とガラス小玉

撮影 小川忠博

